

令和5年6月30日

# 学校だより



7月号

横浜市立美しが丘東小学校  
学校校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

## 待ち育てる

校長 藤本 光子

先日、ある担任からこんな話を聞きました。

「子どもたちの発案で、クラスでパーティーを行いました。私としては、『もっとこうしてみたら…。』と口を出したくなりましたが、黙って見守りました。回を重ねて、一人ひとりの企画力・リーダーシップ力・責任感などを伸ばしていきたいです。」

この話から、教師が待つことの大切さを感じ、とてもよい話だと思いました。

私が担任の頃、大切にしていた場面の一つに、水がこぼれたときの指導があります。バケツや水筒の水がこぼれたとき、子どもは少なからずパニックになるため、大人がすぐに拭いてしまいたくなります。ですが、危険がない場合、あえて私はゆっくりと対応します。そうすると、必ず雑巾を持って拭こうとする子どもが現れるのです。その瞬間、私は「ありがとう」「助かる」などと大いに褒めて、価値付けます。また、褒められているのを見て真似して拭いた子ども同じく褒めます。友達から価値を学び、自分も実行できたことは素晴らしいことなのです。

大切なことは、教師がすぐに手を出さないこと、また、「拭いてあげてください。」などと指示しないことです。子どもが自主的に動くところを見取ってから、先生も手伝うね、と先生が脇役になるのです。

実は昨年度、美東小でもそのような場面に出会いました。昇降口の靴箱で、ある子の水筒の水がこぼれてしまうことがありました。たくさんこぼれたので、私は雑巾を探しに行きました。すると、戻ってきたときに、すでに雑巾で拭いていた子がいたのです。実はこの時、私はわざと待っていたわけではなく、本当に雑巾が見当たらず苦勞していたので、その子の姿は救世主のように見えました。とても嬉しくて、「どこから雑巾を持ってきたの?」「どうして拭こうと思ったの?」などとあれこれ聞いてしまい、少々驚かせてしまいました。担任に聞いてみると、その子は目立った役割に立候補するわけではないのですが、他人を気遣うことができる優しさがあり、誰かが困っている場面では自主的に動くことができるとのことでした。

子育てする中で、「待つ」と「聴く」が成長につながるとよく言われます。学校現場でも、あえて待つ指導が、結果的に子どもの成長を大きく促すと実感しています。ただ、我が家の子育てになると「待つ」ことは、忍耐と勇気を要することも承知しております。どうぞ「待つ」ことに挑戦し、お子さんの成長を感じていただけたらと思います。

最後になりましたが、前期前半、様々な行事にご協力くださり感謝申し上げます。気持ちよく夏休みが迎えられるよう、7月も体調管理等ご協力よろしく願いいたします。